

新鶴見通信

★新鶴見小学校★

新型コロナウイルス感染予防の対応で、横浜市立学校も3月3日(火)～3月24日(火)まで一律休校を余儀なくされました。そんな状況の中ですが、3月19日(木)に卒業生154名を旅立たせる予定です。例年とは異なり、なるべく時間短縮した形で卒業生と教職員のみで式を行うこととなりました。晴れの舞台である卒業式がこのような形になってしまうことは、学校としても大変残念に思うとともに、卒業生や保護者の皆様には申し訳なく思います。また毎年、ご来賓としてご臨席いただいている皆様についても、ご遠慮いただく形になってしまうこと、大変申し訳ございません。こんな状況の中、少しでも卒業生にとって心に残る形で見送れるように、学校として最善を尽くしたいと考えています。

(原稿執筆：3月12日現在)

新鶴見小学校長 濱田 哲也

★新鶴見小コミハウス★

皆さま、お元気でお過ごしでしょうか？

新型コロナウイルスの猛威で、コミハも3月は休館、4月も上旬は危ういかも……。自主事業は5月より再開の方針です。講座の受付は4月中旬を予定しております。経験したことない事態で、上から下まで右往左往の連続、地域の皆さまにも何回もお電話することになり、ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

「お友達と笑い合える場所がほしいのよ」

「家で一人っきりは寂しいのよ」

「本だけでも、借りたいのよ」

と、お声を沢山頂きますが、ここは辛抱してみんなで、乗り切りましょう！

着任一年目の終わりが、尻つぼみで私も大変残念ですが、若葉生い茂る季節には、皆さまの笑顔にお会いできることを楽しみにしております。この一年暖かいご支援ありがとうございました。

新鶴見小コミュニティハウス館長 川田 恵利

★新鶴見ホーム★

結いしんぶん第50号の発行おめでとうございます。長きにわたり地域を結ぶ便りとして愛され、発行を重ねられていることに心から敬意を表します。

地域の皆様には、当ホーム運営へのご支援やお客様の生活に彩りを添えていただき、心から感謝申し上げます。しかしながら2月下旬からは、新型コロナウイルス感染防御のために、面会禁止、ボランティア受入や地域交流室貸出を停止させていただいています。お客様の安全のため、ご理解ご協力をお願いいたします。一刻も早く感染が収束することを祈っています。

これからも、地域の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、職員一同活動してまいりますので、引き続き、よろしく願いいたします。

新鶴見ホーム所長 森 崇

★新鶴見公園★

長い冬も終わりを迎え、公園の風景も変わり、春が来ました。

新型インフルエンザのため、町の中は閑散とております。公園は安全・安心・清潔の場所を提供します。遊びに来てください。

新鶴見公園愛護会 菊池 武徳

編集後記

江ヶ崎社協は、平成12年12月に設立されました。その広報紙「結いしんぶん」は平成14年6月に創刊され、今回が50回目の節目の号となりました。この間、企画・執筆・編集・印刷に多くのみなさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。次号より、紙面の模様替えをして、51号、52号と発行してまいります。どうか、みなさんのご支援とご協力をお願いいたします。(く)

江ヶ崎町福祉だより 第50号

結いしんぶん

発行日 令和2年3月25日
発行所 江ヶ崎地区社会福祉協議会
発行者 黒川 修三
045-583-5225
〒230-0002
横浜市鶴見区江ヶ崎町21-4



『結いしんぶん』創刊50号 おめでとうございます

横浜市鶴見区社会福祉協議会事務局長 鍋木 克芳

この度は江ヶ崎地区社協「結いしんぶん」発刊50号を迎えたこと心よりお祝い申し上げます。平成14年創刊の「結いしんぶん」は、江ヶ崎町にお住いの皆様、地域福祉に地道に向かい合った結果が、この50号に繋がったのだと改めて感服する次第です。

江ヶ崎地区については、近年若い世代の流入が著しかったこともあり、鶴見区でも珍しく高齢化率が11%（区平均21.1%）と非常に若い地区でもあります。

「福祉」というとどうしても「高齢者への取り組み」と連想してしまいがちですが『そこに住む住民の全てにとって住みやすく、安心して暮らせる地域づくり』が地域福祉の根幹です。江ヶ崎地区では町と地区社協が両輪のように活動され、10月に行う「長寿を祝う集い」をはじめ、「いちりんの会」の食事会「ゆうゆうサロン」や、大人も子どもも全世代を対象とした「江ヶ崎サマーフェスティバル」など、新しい世代を受け入れて発展していく土壌づくりを上手に展開されています。まちづくりを切り口として、全国的にも地域活動に繋がりにくいと言われている若い世代を惹きつける魅力が江ヶ崎にあるのだと、私自身何回も江ヶ崎地区の各種事業にお邪魔させていただく度に考えさせられます。

私も鶴見区社会福祉協議会も、区の地域福祉推進にあたり、皆様の活動からいただいたエネルギーを以て、今後の江ヶ崎町を含む区内他地区における地区社協支援のヒントにしていきながら、皆さんに少しばかりでも還元していけたらと思っています。

江ヶ崎地区社協の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

結いしんぶん創刊50号おめでとうございます。

平成14年6月に初版を発行されて、長期にわたり情報発信を継続されているとのことで、関わられている全ての方々に敬意を表します。

平成18年11月12日発行の第16号から 矢向地域ケアプラザの地域包括支援センター職員が、記事を執筆させて頂いております。

職員一同、地域の相談場所であるセンターを身近に感じて頂けるような記事の作成を心がけております。

記念すべき50号に原稿を書かせて頂けることに感謝申し上げますとともに、今後、リニューアルした「結いしんぶん」を拝見できることを楽しみにしております。

横浜市矢向地域ケアプラザ
所長 妹島 和美

結いしんぶん創刊50号おめでとうございます。

コミハに、「結いしんぶん」の綴りがありまして（少し欠番しておりますが）この機会にゆくり拝読させていただきました。

感想は……地域福祉の広報という役割を十分に果たしていらっしゃるなあと、実感いたしました。また、地域を大事になさっていることも伝わって参りました。そして何よりも、毎回特集を考え、執筆を依頼し、編集をなさっている縁の下の皆様のご苦勞を考えると、心よりの感謝ですね。

これからも地域の方々へ、身になる特集で色々な情報をお届けくださいませ。

毎号、楽しみに待っております。

新鶴見小学校コミュニティハウス
館長 川田 恵利

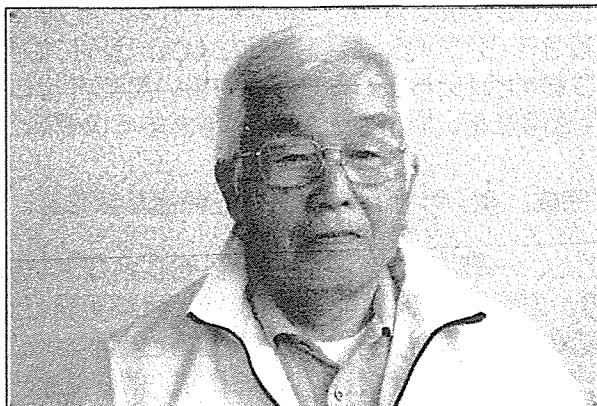
号	発行日	(本紙)	巻頭・提言・特集	(別刷)
一	(平成) 一四 六・一	創刊にあたって	福祉だより発行によせて わたしの「江ヶ崎」	江ヶ崎いまむかし
二	一〇・一	第三号の発行にあたって	第六回「長寿を祝う集い」 特集「介護」とは 特集「子育て支援」	行政名の変遷と江ヶ崎町名のいわれ 新鶴見操車場 ① 新鶴見操車場 ② 鶴見川 ①
三	一二・二五	知的障害者施設の整備計画について	鶴見区社会福祉大会 地域福祉ヒヤリング いちりんの会・冬立つ日の食事会 防災座談会	自動車鑄物株式会社 ニヶ領用水 ① ニヶ領用水 ② ニヶ領用水 ③
四	一五 三・二〇	知的障害者施設を訪ねて	平成一六年度活動記録 介護予防講習会 介護保険制度が変わります 「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	記主学舎(矢向学舎)から新鶴見小へ 江ヶ崎八幡神社のはなし 東京電力・京南変電所 栄松山寿徳寺
五	一〇・二六	鶴見川の源流を訪ねて	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート 第一〇回「長寿を祝う集い」 赤ちゃん会(高齢者サロン)スタート	江ヶ崎八幡神社のはなし 江ヶ崎「稲荷講」のはなし 周辺・町名の由来 ①
六	一〇・一〇	知的障害者入所更生施設について	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート 「結いしんぶん・回覧版」スタート あいねつとこれまで五年これからの六年 (鶴見・あいねつと担当です(区石川係長))	江ヶ崎の農業① 米づくり 江ヶ崎の農業② 野菜づくり
七	一一・一	鶴見川の源流を訪ねて	「民生委員」の仕事 第四回鶴見あいねつと推進フォーラム 「江ヶ崎・あいねつと地区フォーラム」 ハザードマップと町防災マップ	周辺・町名の由来 ② 周辺・町名の由来 ③ 鶴見川 ②「暴れ川とアミガサ事件」 母なる川・鶴見川とニヶ領用水 愛宕さまと庚申さま
八	一一・一〇	車椅子の体験講習会	「江ヶ崎この人」私の「昭二〇年八月一日」雨森慎一 五十嵐	江ヶ崎の農業③「なす」の共同栽培 ニヶ領用水(竣工四〇〇年) ① ニヶ領用水(竣工四〇〇年) ② 新鶴見小学校 ① 新鶴見小学校 ② 新鶴見小学校 ③ 新鶴見小学校 ④
九	一二・二六	「福祉保健計画地域懇親会」開催	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	ミステリーツアー 魅力のポイント 鴨志田 右衛門翁のはなし ① 鴨志田 右衛門翁のはなし ② 鴨志田 右衛門翁のはなし ③
一〇	一三・二〇	阪神淡路大震災から一〇年	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	江ヶ崎・江ヶ崎の年中行事(夏の部) 江ヶ崎・江ヶ崎の年中行事(秋の部) 江ヶ崎・江ヶ崎の年中行事(冬の部) 江ヶ崎と周辺地域の「講」のはなし 矢向・江ヶ崎の年中行事(冬追補)
一一	一三・二〇	安心して子育てができる地域社会を	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	矢向・江ヶ崎の年中行事(追補)
一二	一七 七・一	阪神淡路大震災から一〇年	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	江ヶ崎町内会の歴史 「町のはらっぱ」から 「新鶴見公園」へ
一三	一八 一・一〇	災害に強い地域づくり	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	鶴見川・水管橋のはなし 架け替え工事が始まった「未吉橋」のはなし 新鶴見ホーム・地域交流室について 新鶴見ホーム・園芸ボランティアについて
一四	一八 三・五	だれでも安心して生活できる社会に	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	「江ヶ崎町公会堂」ものがたり
一五	一六 六・二〇	向こう三軒両隣 災害時に助け合える付き合いを	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
一六	一七 一一・二二	「江ヶ崎まちあるき」の報告	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
一七	一九 八・三一	「わたしの町の魅力」発行について	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
一八	二〇 一・一五	江ヶ崎「ミステリーツアー」の開催	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
一九	二〇 六・一	障害者支援施設「希望」がオープン	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
二〇	二〇 一〇・二〇	ニヶ領用水を祝して(阿部 区社協事務局長)	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
二一	二二 三・三一	江ヶ崎「町社協」から「地区社協」へ	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
二二	二二 八・一五	「防災名簿」この一〇年	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
二三	二二 二・二八	「防災名簿の再登録」	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	
二四	二二 七・二〇	「個人情報保護法」施行から5年	「江ヶ崎・あいねつ」とスタート	

二五	二三 三・一〇	個人情報とプライバシー情報	身近な地域・元気づくり事業 展開中	江ヶ崎の農業③「なす」の共同栽培	和田五(イツ)
二六	二六 八・一	災害時の「自助」「共助」「公助」について	定時総会報告・役員改選	ニヶ領用水(竣工四〇〇年) ①	菊池 栄
二七	二七 一一・五	「あんしんカード」と「救援協力者」募集	東日本大震災から八ヶ月になります しょうじゅの里鶴見	ニヶ領用水(竣工四〇〇年) ②	佐藤 昭次
二八	二八 二・一	「ボランティア」とは?	「二六万人・三〇〇人・(四五〇人)」 ふたたび災害時の「自助・共助・公助」 お芋パーティーとクリスマス会	新鶴見小学校 ① 新鶴見小学校 ② 新鶴見小学校 ③ 新鶴見小学校 ④	田村 まつ 高橋 好吉 池端 晋治郎 武井 美佐子 横山 忠平
二九	二九 五・一	災害時「要援護者支援」の取組みについて	ふたたび「地区社協」ってなあに? 子育て広場 冥利	ミステリーツアー 魅力のポイント 鴨志田 右衛門翁のはなし ① 鴨志田 右衛門翁のはなし ② 鴨志田 右衛門翁のはなし ③	渡邊 ケサヨ 立石 俊一 佐藤 庄次 佐藤 良弘 永井 富美枝
三〇	三〇 九・五	こんにちには区役所の園城寺と申します	江ヶ崎町の施設のご紹介	矢向・江ヶ崎の年中行事(夏の部) 矢向・江ヶ崎の年中行事(秋の部) 矢向・江ヶ崎の年中行事(冬の部)	廣瀬 良弘 藤川 高章 秀島 敦(岳崇)
三一	三一 一・七	「江ヶ崎あいねつ」と「標語入選作決まる」	江ヶ崎の赤ちゃん会	江ヶ崎と周辺地域の「講」のはなし 矢向・江ヶ崎の年中行事(冬追補)	高村 好子 雨森 慎一
三二	三二 五・一五	二五年度「あいねつ」とスタートを前に	江ヶ崎の赤ちゃん会	矢向・江ヶ崎の年中行事(追補)	進藤 八郎(淡徳)
三三	三三 九・一五	その日は「突然」やってきました!	「結いしんぶん」のあゆみ	江ヶ崎町内会の歴史 「町のはらっぱ」から 「新鶴見公園」へ	杉江 一枝 菊池 武徳
三四	三四 二・一五	近所付き合いを大切に	「結いしんぶん」のあゆみ	鶴見川・水管橋のはなし 架け替え工事が始まった「未吉橋」のはなし 新鶴見ホーム・地域交流室について 新鶴見ホーム・園芸ボランティアについて	湯山 一也 奥山 アキ 菊池 イネ
三五	三五 六・一五	平成二六年度「江ヶ崎・あいねつ」の取組み	「結いしんぶん」のあゆみ	「江ヶ崎町公会堂」ものがたり	大塚 和子 小澤 弘政
三六	三六 一一・五	江ヶ崎町の取り組みを寄せて(伊藤事務局長)	「結いしんぶん」のあゆみ		
三七	三七 三・三〇	あらためて「社会福祉協議会」とは?	「結いしんぶん」のあゆみ		
三八	三八 八・一五	江ヶ崎地区社協 定例総会	「結いしんぶん」のあゆみ		
三九	三九 一一・二一	「こんにちには江ヶ崎担当の加藤です」	「結いしんぶん」のあゆみ		
四〇	四〇 三・二五	冊子「江ヶ崎の防災」をお届けします	「結いしんぶん」のあゆみ		
四一	四一 八・二〇	九月四日は「町の総合防災訓練」です	「結いしんぶん」のあゆみ		
四二	四二 一一・一八	第二〇回「長寿の祝う集い」がひらかれました	「結いしんぶん」のあゆみ		
四三	四三 二・九	「黄色いリボン」・「あんしんカード」	「結いしんぶん」のあゆみ		
四四	四四 三・三一	町の防災名簿への登録のおすすめ	「結いしんぶん」のあゆみ		
四五	四五 八・二五	横浜に来て初めてお世話になった町	「結いしんぶん」のあゆみ		
四六	四六 一一・二五	「江ヶ崎町」帰ってきました	「結いしんぶん」のあゆみ		
四七	四七 三・二五	健康長寿をのびそう!	「結いしんぶん」のあゆみ		
四八	四八 八・二五	ふたたび「近所付き合いを大切に」	「結いしんぶん」のあゆみ		
四九	四九 一一・二五	江ヶ崎町を担当して(上野係長)	「結いしんぶん」のあゆみ		
五〇	五〇 三・二五	社会福祉協議会ってどんな組織?	「結いしんぶん」のあゆみ		

◆創刊号(七号)まで「江ヶ崎福祉だより」 第八号より「結いしんぶん」となる。
◆矢向地域ケアプラザの「地域包括支援センターより」は、第一六号から四九号まで掲載。
◆『新鶴見通信』は、第二号(新鶴見小・新鶴見小コミハ・新鶴見ホーム)からスタート、第四号から新鶴見公園が加わって本号まで掲載。

江ヶ崎この人

おざわ ひろまさ
小澤 弘政 さん



プロフィール

生まれ：昭和13年(1938)11月12日 満81歳 寅(とら)年
東京都荒川区尾久
4人兄弟(二男二女)一番目で長男
趣味：若いころは—ゴルフ、ボウリング、バイク
写真(DPEもやった)、
今は—カラオケぐらい
嗜好：食べ物→好き嫌いなし 魚よりは肉を好む
煙草→58歳まで1日2箱の愛煙家
お酒→(晩酌)350mlビール缶と焼酎水割り
(只今は ドクターストップ中)

—東京の下町 尾久の生まれ

昭和13年、東京の荒川区尾久の生まれです。父は和船をつくる職人「船大工」でした。

太平洋戦争が始まった翌年の昭和17年4月、尾久を含む地域が、日本本土の初空襲に遭いました。

これを機に、父は東京で自宅を守り、母と幼子は茨城県結城市の母の実家に疎開させることを決めました。私が4歳の時でした。

その後、尾久の生家は、昭和20年3月10日未明

の東京の下町が、全て炎に包まれた東京大空襲で焼失してしまいました。

—茨城県結城市での疎開生活

疎開先では 昭和17年～昭和24年までの戦中戦後の7年間を過ごしました。農耕馬用の馬小屋を改装してもらい住まいとしていました。

小学校通学時、霞ヶ浦の予科練を標的とする米軍戦闘機の機銃を受けたことが2度ほどあります。

終戦後は、教科書も揃わず先輩に借りました。勉強も満足に出来ず、四六時中腹を空かしていました。

母は農家の農作業やお蚕の手伝いで忙しく、長男の私は、ご飯の支度や末妹のお守りなど、小学高学年生にとっては なかなか大変な毎日でした。

—昭和25年 横浜 その後 南加瀬へ

昭和25年、父が勤めていた造船所に近い桜木町駅西側の花咲町で、一家6人の生活が始まりました。学校は由緒ある本町小学校、中学は長者町の吉田中学校に通いました。

大森工業高校機械科を卒業して、昭和32年日立造船に就職しました。62年12月に造船業界も鉄鋼の構造不況に陥り、63年機械分野をもつ関連会社に異動しましたが、平成10年10月の定年まで勤めあげました。一貫して好きな「機械」の分野で一所懸命 働けたことにとっても満足しています。

—江ヶ崎には来たのは、昭和42年

昭和40年に結婚、相手は友人の妹(弘子さん)で、新郎26歳、新婦20歳のときでした。

子どもは2人、孫は3人です。

2年後の昭和42年 現在地(ぼたん地区)に平屋の家を建て、江ヶ崎の住民となりました。その後2階建て、3階建てと2回建て替えました。

町内会との係わりは、家内の方が早く、組長(現地区長)や家庭防災員に声を掛けられました。

私の方と云えば、仕事中心で日々忙しく、いわゆる会社人間でした。徹夜だ 夜勤だ 残業だ は当た

り前で「残業100時間越え」などザラでした。仕事に追われ 地域に係るなんて、とても考えられませんでした。

定年が近づいたころ、八幡宮祭礼を手伝ったことが、地域との係わりの最初です。疎開先の結城市出身の方から頼まれたのがきっかけで、休息所の担当を仰せつかりました。遅い地域活動デビューです。この時 初めてお赤飯づくりを経験しました。

祭礼の他にも、平成15年頃から町内会広報部の手伝いもするようになり、平成26年から広報部長をさせてもらっています。

—町内会 広報部の仕事

● 「県のたより」「広報よこはま」

月末の配布数1950部。配達の前日に代行の佐川急便から納品日の電話がきます。翌日の午前中に公会堂で受取り、月末の金曜日に仕分けして、翌日の土曜日に地区長さん宅に配付しています。

● 掲示板のポスター

町内掲示板34ヶ所。掲示期間や重要度や町内行事優先等を勘案して貼っています。飛び入りで急を要するものも出来る限り対応し、平均週1回水曜日が多いのですが、雨や風で予定通りいかないことも多々あります。少しでも見易くするためにレイアウトも気配りしているつもりです。3枚～4枚の貼り換えで、午前2時間半 午後2時間半かかります。

● 回覧

24地区135班 平均して週1回地区長宅へ届けています。仕分けには いつも幾人かが 応援に駆けつけてくれます。

インタビューを終えて

「町内会は、会計と広報ですね。もちろん他の部所も大事ですが、この二つがしっかりしていれば、評価は高い。地味で目立たない部所ですが、まさに“縁の下の力持ち”です。

地味な仕事を誠実になさる“縁の下の力持ち”まさに小澤さんのお人柄そのものです」

(鴨志田 正晴さん談)

「江ヶ崎町公会堂」ものがたり

鴨志田 正晴

江ヶ崎には江戸時代から続く稲荷講が、西と東にふたつありました。

初午祭で知られるお稲荷さんはもともと農耕の神様さまで、そのうち工業・商業つまり殖産興業の神さまへとひろがりました。

西の稲荷祠は、江ヶ崎町19番地先(ゆり地区)の角地にありました。

東の稲荷祠は、むかしは八幡神社の参道近くにありましたが、昭和初期、旧操車場建設のため、八幡神社とともに移転して本殿の左裏側(現在の町内会倉庫)に祀られていました。

昭和32年ふたつの稲荷祠は八幡宮境内の稲荷神社に合祀され、講もひとつになり、現在も初午祭は二組に分かれ年毎に交代でお祭りしています。

旧公会堂の前身は 東の稲荷堂

移転してきた稲荷祠は平屋建て、間口二間、奥行き二間半で板敷き。正面奥には、稲荷社と神明社が祀られその中程には囲炉裏が切ってありました。屋根は入母屋風の造り、出入口は観音開きの二枚戸、建物の左右の外壁は鍍戸の窓で、時代劇を思わせる趣きのある建物でした。

戦時中から戦後にかけて、稲荷堂は初午と稲荷講にまつわる祭事が年に二・三回行われるほかに、米などに配給制度が敷かれ農業会と役所との会合などに使用されていました。当時、会長宅や変電所内で開かれるのが常であった町内会の会合も、この稲荷堂を使うことが増えてきたようです。

旧公会堂(稲荷堂を改築・昭和33年)

昭和30年前後になると、「町に集会場を！」との声が強くなり、稲荷堂を改造して集会場として、ひろく地域に開放することになりました。

玄関は南側に二間×六尺の張り出しを造り、上り段と履物入れを造る。玄関の戸は三尺二枚の引き戸で雨戸を付け、板の間であった場所は二間×三間十二帖の畳の間を造りました。十二畳の畳の間の北側部分に洗面所と湯沸場を増築しました。

改造費は、当時の江ヶ崎自治会には資金の余裕がなく、稲荷講ら町の人たち、会社工場の寄付金で賄われました。

現公会堂(昭和45年竣工)

稲荷堂を改造した公会堂は、十数年が経過して手狭になり、何かと不便が生じてきました。確かに600世帯に膨らんだ自治会に十二畳一間の公会堂では余りにも狭く、建て替えの要望は強くなってきていました。

昭和44年自治会総会にて、同じ神社境内に新公会堂の新築が決められました。建築資金については、自治会の積立金と町民からの寄付金、町内の会社工場からも寄付金を募ることとしました。

寄付金の合計額は、343万3千円でした。見積金額の400万円には至りませんでした。世帯数600軒のうち、509軒のご協力をいただきました。また、会議用椅子60脚、会議用黒板、時計などの備品等の多くの寄贈がありました。

新築工事は昭和44年秋完成。45年2月に竣工式を開催しました。

新公会堂は木造二階建てとし、一階には玄関と50人~60名が入れる会議室と押入れ、物入れを作り、ガラス戸で仕切り、湯沸かし所兼厨房と洗面所を設計しました。二階は玄関右側の幅1.2mの階段を上ると廊下と十二畳が二間、計二十四畳の和室、床の間と押入れを作り、二階にも厨房と洗面所を作る設計となりました。洗面所のトイレは一、二階とも兼用トイレとし、稲荷堂を改造した公会堂に比べると、広々とした感じがする設計です。

現公会堂(その後の増改築)

昭和49年度から横浜市は「地域集会施設(町内会館)の整備に対する補助制度」を制定しました。地域活動の拠点となる集会所の整備を、単に地域に委ねるのではなく、行政も積極的に整備に協力してほしいとの各所からの要望を受け止めた結果です。

*昭和63年に自治会は、この制度を利用して、二階和室の西側部分の九畳の増築と、一階玄関わきにコピー室を増築しました。建築資金は自治会の積立金と市からの補助金を充当しました。

*平成8年に町内会(平成5年自治会→町内会に名称変更)は、一階二階を増築、一階の兼用トイレを男子用トイレと洋式トイレに替え、厨房も増築しました。二階には洋式トイレを二か所に、厨房も広くなりました。

建築基準法により、二階外部に避難階段を作り、その後冷暖房の設備も整備いたしました。これらもすべて横浜市の「補助制度」を利用したものです。

*令和元年夏に町内会は、外壁の全面塗装と一階天井の塗装もおこなわれ、一見新築を思わせる装いとなりました。